

「ちばエコ農産物」栽培のために! (品目別栽培カード 15)



バレイショ・マルチ栽培

千葉県農林水産部

1 栽培基準

「ちばエコ農業」のバレイショは、マルチ栽培と露地栽培の2作型に区分されています。いずれの作型とも、栽培基準は、化学合成農薬の使用成分回数が7回以下、10a当たりの化学肥料使用量(窒素成分)が7.5kg以下です。また、堆肥施用量は1,200kgが目安として示されています。



▲ バレイショのマルチ栽培

表1 「ちばエコ農業」で使用できる農薬の上限回数と窒素成分の上限量(バレイショ)
(平成18年4月現在)

作 型	上 限 量		堆肥施用の目安量 (kg/10a)	収穫期
	化学合成農薬使用回数 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)		
マルチ栽培	7	7.5	2,000	—
露地栽培	7	7.5	2,000	—

1 病虫害防除

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した薬剤防除例を表2に示します。

バレイショ栽培で問題となる病気は疫病です。その病徴は、葉に褐色の病斑が生じ、その後、水浸状に拡大します。病斑の裏面や健全部との境に白く細かいカビが発生します。疫病は、多湿な気象条件で急速にまん延し、短期間で茎葉が枯死します。したがって、早期に発病した場合は減収を招き、いもが腐敗しやすくなります。栽培基準達成のためには、まず疫病防除がポイントです。

防除方法として、発病前に予防効果のあるダコニール1000や銅水和剤（Zボルドーなど）の薬剤を散布します。銅水和剤は、「ちばエコ農業」では化学合成農薬に含めない農薬です。早期に発病した場合は、治療効果の期待できるリドミルMZ水和剤などを散布します。いずれも、圃場を観察して、疫病の初発を見逃さないことが大切です。

害虫では、アブラムシ類、テントウムシダマシ（ニジュウヤホシテントウ）などの食葉害虫の被害が見られます。生育初期（4月）にアブラムシ類が多発した場合、被害が大きくなります。テントウムシダマシは、成虫、幼虫とも寄生して、葉裏から網目状に食害します。いずれも、被害が拡大する前の発生初期に登録薬剤で防除します。

このほかに、黒あざ病の防除に種いも消毒を行います。また、そうか病や粉状そうか病などの土壌病害の既発生地では、バレイショの作付けを避けます。

表2 バレイショ・マルチ栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した農薬防除例

処理時期	処 理 法	農 薬 名	10a当たり使用量 (希釈倍数)	対象病虫害	備 考
2月～3月 (植付け前)	種いも浸漬	バリダシン液剤5	200倍	黒あざ病	浸漬時間は瞬時～10分
4月～5月	茎葉散布	エルサン乳剤	1,000倍～2,000倍	アブラムシ類	
5月～6月	茎葉散布	スミチオン乳剤	1,000倍	テントウムシダマシ	
	//	ダイアジノン乳剤 40	1,000倍	//	
5月～6月	茎葉散布	ダコニール 1000	500～1,000倍	疫病	
	//	リドミルMZ水和剤	500～750倍	//	2成分、治療効果あり
	//	※Zボルドー	400倍	//	銅水和剤
	//	※コサイドボルドー	500倍～1,000倍	//	//

注)※印の薬剤は、化学合成農薬に含めない農薬

2 堆肥

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例を表3に示します。

バレイショ栽培では、有機質原料を含む有機配合肥料などを用いることで、栽培基準の達成は比較的容易です。

バレイショの施肥では窒素の施用量が重要です。主要農作物等施肥基準(平成16年、千葉県)による窒素施用量(基肥)は10a当たり15kgですが、圃場の残存窒素量を考慮して、窒素過多にならないように調整します。

多窒素圃場のバレイショは、茎葉が軟弱で過繁茂となり、倒伏や疫病が発生しやすくなります。いもは、着生数が少なく、大いもや二次生長いもが増えてA品収量が減少します。また、水分含量が高く、収穫後の腐敗が増える傾向があります。

鶏ふんなどの窒素分が多い未熟堆肥の多量施用は、そうか病や疫病の発生を助長します。堆肥は、完熟したものを uses。

表3 バレイショ・マルチ栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例

区分	製品名	保証成分量(%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
		窒素	りん酸	加里		窒素	りん酸	加里
堆肥	牛ふんもみから堆肥				1,200			
基肥	有機アグレット888号	8(5.2)	8	8	144	11.5(7.5)	11.5	11.5
	苦土重焼りん	0	35	0	60	0	21.0	0
総施用量						11.5(7.5)	32.5	11.5

注1) ()内のは、総窒素のうち、化学肥料由来の窒素成分量



▲ 萌芽状況



▲ 着生状況



▲ バレイショの機械収穫

☆この「品目別栽培カード」に記載した農薬使用は、平成19年度現地実証試験時点のものです。実際の農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。

- 著 作 千葉県農林水産部担い手支援課
千葉県農林総合研究センター
- 編集・発行 千葉県農林水産部安全農業推進課
- 発行年月日 平成20年3月
- 内容についての問い合わせ先
千葉県農林総合研究センター TEL.043(291)9987
または各地域の農林振興センター